

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アクロスプラザ扶桑 新築工事	階数	地上2F
建設地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字下	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,580 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年11月8日
敷地面積	27,134 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社愛知北支店
建築面積	12,587 m ²	確認日	2016年11月8日
延床面積	11,368 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社愛知北支店



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

3.0 1.5 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.8**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.7**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">9.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 騒音							
1.2 遮音							
1.2.1 開口部遮音性能							
2 界壁遮音性能							
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音							
2 温熱環境							
2.1 室温制御							
1 室温							
2 外皮性能							
3 ゾーン別制御性							
2.2 湿度制御							
2.3 空調方式							
3 光・視環境							
3.1 昼光利用							
1 昼光率							
2 方位別開口							
3 昼光利用設備							
3.2 グレア対策							
1 昼光制御							
3.3 照度							
3.4 照明制御							
4 空気質環境							
4.1 発生源対策							
1 化学汚染物質							
4.2 換気							
1 換気量							
2 自然換気性能							
3 取り入れ外気への配慮							
4.3 運用管理							
1 CO ₂ の監視							
2 喫煙の制御							
Q2 サービス性能							
1 機能性							
1.1 機能性・使いやすさ							
1 広さ・収納性							
2 高度情報通信設備対応							
3 バリアフリー計画							
1.2 心理性・快適性							
1 広さ感・景観							
2 リフレッシュスペース							
3 内装計画							
1.3 維持管理							
1 維持管理に配慮した設計							
2 維持管理用機能の確保							
2 耐用性・信頼性							
2.1 耐震・免震							
1 耐震性							
2 免震・制振性能							
2.2 部品・部材の耐用年数							
1 躯体材料の耐用年数							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							
6 主要設備機器の更新必要間隔							
2.4 信頼性							
1 空調・換気設備							
2 給排水・衛生設備							
3 電気設備							
4 機械・配管支持方法							
5 通信・情報設備							
3 対応性・更新性							
3.1 空間のゆとり							
1 階高のゆとり							
2 空間の形状・自由さ							
3.2 荷重のゆとり							
3.3 設備の更新性							
1 空調配管の更新性							
2 給排水管の更新性							
3 電気配線の更新性							
4 通信配線の更新性							
5 設備機器の更新性							
6 バックアップスペースの確保							

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.82		4.8	0.30		-	4.8
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化				5.0	0.30		-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.66		5.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)							-	
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							-	
4.1 モニタリング							-	
4.2 運用管理体制							-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型トイレの使用		4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63		-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	磁器質タイル・ビニル床材		4.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS+PB)		4.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡断熱材を使用しない(グラスウール)		5.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮				4.2	0.33		-	4.2
①		ライフサイクルCO2概算値:70%		4.2	0.33		-	
2 地域環境への配慮				3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25		-	
ガス燃焼機器を使用しない				3.0	0.50		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.3	0.25		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				-	-		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.33		-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			4.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制		駐車スペース・自転車置場の確保、荷捌き車両用スペースの確保		3.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	1.00		-	
2 振動	独自			-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制							-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明の立ち外に漏れる光への対策				1.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:9.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 アクロスプラザ扶桑 新築

計画上の配慮事項	
総合	建物は長寿命化に配慮し、省エネ性能の高い建築としている。 売場の天井高は高めに設定し、内装材にはF☆☆☆☆を用い 全館禁煙とするなど快適な室内環境に配慮している。 太陽光発電を採用し、自然エネルギーの活用も図っている。
Q1 室内環境	内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用
Q2 サービス性能	内装仕上材は耐用年数の長いものを使用
Q3 室外環境(敷地内)	入り口や駐車場など外部からの接点部分に緑地を設け、周辺環境に配慮している
LR1 エネルギー	BPI=0.82、BEI=0.66
LR2 資源・マテリアル	節水型器具の採用 グリーン購入法適合商品を積極的に採用
LR3 敷地外環境	LCCO2排出率=70%
その他	